

学校だより

Vol. **104**

2018.4



Contents

- 02 卒業式・専攻科修了式告辞
- 04 祝 卒業・修了
- 14 卒業生・修了生の進路
- 15 学生会
- 16 高専ロボコン・プロコン
- 17 高専デザコン・プレコン
- 18 クラブ活動等の結果
- 20 磐陽祭
- 20 TOPICS
- 22 退職者挨拶



福島工業高等専門学校

第13回専攻科修了証書授与式・ 第52回卒業証書授与式



第13回専攻科修了証書授与式・ 第52回卒業証書授与式 告辞

福島工業高等専門学校 校長 中村 隆行



修了生・卒業生諸君、修了・卒業おめでとうございます。

本日、ここに、多数のご来賓と、修了生・卒業生の保護者の皆様のご臨席をいただき、第13回専攻科修了証書授与式並びに第52回卒業証書授与式を実施出来ますことは、教職員一同、誠に慶びとするところ

であります。ご多用の中、御出席いただきました、御来賓の皆様、並びに保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本日、本校を巣立つのは、専攻科の、産業技術システム工学専攻21名、及びビジネスコミュニケーション学専攻4名の専攻科修了生計25名、その内、復興人材育成特別コース修了者7名、並びに、本科生として、機械工学科36名、電気工学科33名、物質工学科37名、建設環境工学科35名、コミュニケーション情報学科35名の計176名です。

修了生・卒業生の諸君、諸君が本日ここに晴れて卒業式を迎えることができるのは、これまで、日々、勉学に励み、精進を重ねてきた結果です。諸君のこれまでの努力に敬意とお祝いの気持ちを表したいと思います。また、本日、諸君が晴れてこの卒業の日を迎えることが出来るのは、ご家族の愛情と援助、教職員の熱心な指導のお陰

であります。諸君を育ててくれたすべてのの方に、感謝の気持ちを持っていただきたいと思います。

修了生・卒業生の保護者・御家族の皆様には、本日、御卒業のお子様を、このように立派に育て上げられましたことに、敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、本日、福島高専を巣立つ諸君に対して、私は、次の三つの観点について、その重要性を説明したいと思います。

一つ目は、「持続可能な開発が可能な社会を構築する」ということです。英語では、サステイナブル・ディベロップメントと言います。将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズを満足させる節度のある開発が重要であるという概念です。わかりやすく言うと、子や孫の代につけを残さない開発ということもできると思います。この概念は、二十年ほど前に、国連で提唱されたもので、これまで、国連が中心となって進めてきたものです。

最近では、2030年までに達成すべき十七の目標、これらはSDGsとされていますが、国連により取り纏められました。具体的には、貧困や飢餓の撲滅、健康や福祉、生涯学習の促進、気候変動への対策、再生可能エネルギーの導入などの具体的な目標が掲げられています。

福島高専は、一昨年、文部科学省などが実施する「サステイナブルスクール」事業に応募し認定されました。この事業の一環として、今年度は、ビジネスコミュニケーション学科を中心として、海面上昇により島国全体が存亡の危機にある、キリバス共和国名誉領事のケンタロ・オノ氏の講演会などを実施し、実際に気候変動の影響を間近に受けている国の話を聞きました。



また、これらの十七の目標は、一国だけではなくて、人類全体について、豊かに、かつ幸せに暮らしていける方策が設定されていると思います。私は、このサステナブル・ディベロップメントという概念は、マイナスからプラスへと、世界が注目する福島浜通りの復興を目指している私たちにとって、とても重要な指針だと思っています。

二つ目は、諸君には、これまで何度も言ってきましたが、「世界に活躍する」ということです。グローバル化が進んで世界が小さくなり、様々なことが日本だけでは完結しない時代になってきています。諸君の様に、これからの日本を背負う若者は、世界の人たちと情報交換をし、あるいは様々な国際的な場で、しっかりと意見を伝えることが出来るなど、「世界に活躍する」という観点が、ますます要請されてくると思います。

最後の三つ目は、やはり「いわきから」という視点です。これは、「福島から」と言い直すことも出来ると思います。東日本大震災から、七年が経過しました。しかしながら、福島は、福島第一原子力発電所の事故の影響があり、震災復興はまだその途上にあります。福島から離れる諸君も多いかと思いますが、原子力発電所の廃炉には、今後、数十年かかると言われており、修了生・卒業生の母校となる福島高专は、一昨年から実施している「廃炉創造口ポコン」や、廃炉・環境回復に関する研究開発など、原子力安全の課題に対して、今後とも取り組み続け、地域の復興に貢献していくということを忘れていただきたいと思います。

さて、私は、この三月をもって福島高专校長を退任致しますが、最後に、諸君に二点お願いしておきたいと思っています。

一つ目は、福島高专生及び福島高专修了・卒業生は、

常に挑戦し続けてほしいということです。皆さんの今後の成長のためには、決して楽をしないという姿勢が欠かせないと思います。常に、自分の能力の二から三割上位の目標に臨み続ける、この姿勢を将来ずっと保っていただきたいと思っています。

二つ目は、人のまねをしないという姿勢です。これからの若い人たちには、とりわけこの観点が重要だと思います。自分自身のオリジナリティを大切に、オンリーワンの発想、アイデアを生み出すことを、常に自分への課題としてください。他人の指示を待つのではなく、常に自分自身がどう考えるかということ、大切にしていきたいと思っています。皆さんのそういった積み重ねが、必ずや将来の福島や日本の発展を支えると、私は確信しております。さらに、自らに自信を持って、健康に留意し、自らの夢を実現してほしいと思います。

最後に、諸君のこれからの人生が、幸多いものであることを祈念して告辞と致します。





卒業おめでとう

機械工学科5年担任 小出 瑞康
みなさん、ご卒業おめでとうございます。私は皆さんと共に福島高専に赴任し、皆さんの担任を持つことになりました。担任業務は大変な仕事ですが、幸い私は楽しくやらせてもらいました。みなさんと関わりを持てたことをうれしく思います。担任は、他の先生方よりも話をすることの多い教員だと思います。大人との会話は友人とはできない話ができる機会、社会性を身につけるためにもある程度は必要だと思います。私は、専門の学力だけでなくいろいろなことを伝えたいと思っていました。会社では仕事に必要な知識を自分自身で学ばなければなりません。また、社会人として身につけるべきこともありますし、今後の社会の変化も大変なものになるでしょう。これらをちゃんと伝えられなかったことが少々心残りです。結局は自分自身で乗り越えなければならないのですが、福島高専での多くの経験が役に立てば幸いです。みなさんが幸せになれることをお祈り申し上げます。

5年間を振り返って

機械工学科5年 狩野 知泰
入学してからもう5年も経ったと思うと時の流れの早さをしみじみ感じます。5年間を振り返ると実にたくさんの方がいました。低学年のときには、部活と学業との両立に大変苦労しました。学年が上がるにつれ、勉強が難しくなりその度に先生や友達、先輩に助けられました。高専で5年というとても長い月日を過ごしたはずなのに振り返るととても短かったように感じます。それは、きっと毎日がとても忙しく、そして充実していたからだと思います。私は多くの人に支えられここまでできました。苦しい時も楽しい時もいつもそばにいてくれた友達や学校生活をサポートしてくれた先生、時に優しく時に厳しく叱ってくれた両親など挙げていったらきりがありません。おそらく、一人ではここまで来ることはできなかったでしょう。これらの人への感謝を忘れずに社会人になっても日々精進していきたいと思います。今まで、本当にありがとうございました。



卒業おめでとう

電気工学科5年担任 山本 敏和
長かった高専での生活では、様々な分野の科目を受講し、実験、実習、インターンシップ、卒業研究等を行って、頭脳と手を使って取り組んで来たことでしょう。人間は生まれたままでは、言葉を発せず、手や脚の動かし方も意のままになりません。周囲の人の言葉を聴いて意味や使い方を覚え、手や脚など動かしていくうちに脳や神経が発達して器用な動作ができるようになってきました。これと同様に、電気工学科で頭と手を鍛えた結果、入学前に比べて遙かに多くの知識と技術を獲得し、また自分で考え学ぶ習慣がつき、大きな進歩をとげていると思います。これらを土台として、卒業後の新しい環境で新たな知識とより高度な技術を身につけて社会に貢献するとともに幸福な生活をおくられることを心から願います。

25%に感謝

電気工学科5年 鈴木 陵太
私の高専生活は、陸上競技部に所属し、顧問の根本先生の厳しい指導を受け、毎日限界を超える練習をしているか、クラスの委員長を5年務め、担任の笠井先生と石原先生と山本先生と一緒に、クラスがより良い方向へ進むように、とクラスのまとめ役をするか、の2つでした。物事の最中は、辛かったり、悲しかったり、いやだ、と思うこともありました。私はふと、高専に通った5年間で私が生まれてからの25%って気づきました。かわいい子には旅をさせろ、私は高専への旅を経て、負の感情を越えて、過去の自分とは比べることが出来ないほど成長することが出来ました。私を成長させてくれた先生方、学生課の方々、一緒に笑いあったり、テスト時に瀕死の私に勉強を教えてくれた友達、一緒に部活をやりきった仲間達、そして、ここまで育ててくれた両親に感謝し、社会に出ていきたいと思っています。入学してよかった。ストレートで卒業できてよかった高専。ありがとう福島高専。



大輪の花を咲かせ

物質工学科5年担任 柴田 公彦

ご卒業おめでとうございます。

クラス担任となって3年間、本当にあっという間でした。低学年担任の新井先生、馬場先生から引き継いだこのクラスは穏やかで雰囲気も良く、すでに荒川君などクラス委員のリーダーシップのもとで自主的に行動できるクラスになっていたため、3年間私の出る幕はなく終わってしまったように思っています。

5年間一緒にクラスで勉学・実験に励み、ここに卒業を迎えている皆さんはどのような気持ちでしょうか。苦しいこと楽しいことなど、いろいろなことがあったでしょう。また各々、これはがんばった、ということもあるでしょう。5年間の様々な経験や努力が、これからの皆さんの人生において結実し、やがて大輪の花を咲かす日が来ると信じています。

最後に、健康にはくれぐれも留意してください。皆さんの活躍を期待しています。

高専にきてよかった

物質工学科5年 荒川 史弥

私たちは5年間の学生生活を終えました。思い返してみると毎日が充実し、あっという間な時間だった気がします。部活動や学校のイベント、それらを通してそれぞれがたくさん思い出や記憶に残る出来事があったことでしょうか。そこで得た友情、団結力、助け合う事は今後の自分にとって必ずプラスになり、かけがえのないものになるはずです。みんなと協力してなにかを成し遂げることの大切さに気付かされました。

そして、これまでの5年間で共に過ごしたクラスメイトともお別れです。これからは別々の道を歩んでいきます。これから、困ったときや苦しい時に頼るべき人が今の仲間たちです。どんな時も協力し合ってきた心強い仲間がいます。高専で学んだこと、大切な人との出会い、そして感謝の気持ちをこれからも忘れることなく、ひとりひとりが夢に向かって素晴らしい人生を送れることを期待しています。皆に出会えてよかった。今までありがとう！



卒業おめでとうございます

建設環境工学科5年担任 林 久資
5年間の福島高専での生活はどうでしたか？
あっという間の5年間だったのではないでしょ
うか。では、その5年間であなたは何を
得ることができ、どう成長しましたか？
答えに詰まる方は、もう一度5年間の
学校生活を振り返ってみましょう。

みなさんは、勉強に関して低学年での
学習を基礎に、高学年での専門的学習を
積み重ねてきました。インターンシップ
では社会の厳しさを知り、部活動・寮
生活などでは集団生活の大切さを知っ
たのではないのでしょうか。その他にも
大小様々なチャレンジをし、それらに
は必ず先生や仲間という存在があっ
たはずですよ。既に、みなさんは就
職や大学編入に必要な基礎的知識・
能力を得られている状態で、入学当
時と比べ大きく成長しているのです。
自信を持って、周囲への感謝の気持
ちは忘れずにそれぞれの道へ進んで
ください。活躍を期待しています。

私にとって最初で最後のクラスとなっ
てしまいましたが、3年間本当にあり
がとうございました。お元気で。

5年生の思い出と学んだこと

建設環境工学科5年 荒川 和輝
高専の5年間で多くの行事や、長期休
暇があり、それぞれに楽しい思い出が
ありますが、私が特に印象に残ってい
るのが、みんなで力を合わせて望ん
だテスト期間です。

高専におけるテスト期間は中学校の
時とは比べ物にならないくらいに難
しく、苦しい期間でした。その苦し
い中で、得意な教科、不得意な教科
を友達と助け合って勉強したり、放
課後も勉強出来るスペースを探して
、夜遅くまで勉強をしました。しか
し万全をきしてテストに望んでも
、良い点数を取ることが出来ず、留
年の危機にも陥りました。そこで、
この失敗をどう次に活かせるかを
合理的に考えることによって、次
のテストでは良い点数を取ることが
出来ました。

そうして、毎回のテスト期間を過
ぎす内にクラスメイトとの絆は深ま
っていき、5年生の今ではかけがえ
の無い宝となりました。

社会にでたら、自分の人の力では解
決することのできない問題や、失
敗があると思います。その時は、
高専のテスト期間で学んだ事を活
かしたいと思います。

高専の5年間は最高の思い出です！
ありがとうございました！

コミュニケーション情報学科

Department of Communication and Information Science



卒業生の皆さんへ

コミュニケーション情報学科5年担任 杉山 武史
5年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

私が担任になって早いもので3年が経ちました。

高専生活の5年間において様々なことがあったかと思えます。勉強に励み学力を伸ばした人、学外活動に励み社会について勉強した人。学生個人によって何について経験したかも大きく異なっているかと思えます。しかし、それらすべての経験が今の皆さんを構成する基になっています。

一方で、皆さんはこれから学生生活を終え社会人として生活していく人、大学等へさらに進学し学生生活を続ける人、など様々な進路へ分かれていくかと思えます。しかし、高専生活5年間で培った経験はどのような進路に進むにせよ、大いに役立てることが出来るかと思えます。自分に自信を持って新たな生活に進んでください。皆さんの今後のご活躍をお祈り申し上げます。

クラスみんなへ

コミュニケーション情報学科5年 尾股 佑亮
高専生活5年間、進級するために共に必死に

闘ったクラスメイトに感謝しています。クラスみんなと初めて会ったのは大雨の中の入学式です。あの時いた41人はいろいろあって今は24人になってしまいました。毎年誰かがいなくなり新しいメンバーがやってくる。その繰り返しで今の5年生は36人になりました。学年が上がるにつれて高専のテストは一人では乗り越えることができないと知っていった私たちは、テスト期間になると自然と教室や研究室に集まり、夜遅くまで残って勉強を教えたり教わるようになりました。普段はバラバラのみんながテストを乗り越えるために一致団結していたことは、今となっては少し楽しかった気がします。みんなのおかげでテストを乗り越えることができ、卒業を控えることができます。5年かけてもクラス全員仲よし！っていうクラスにはなれなかったけどとっても楽しかったです。みんな今までありがとう。



人間万事塞翁が馬

～禍福は予測できない～

生産・情報システム工学コース
コース長 寺田 耕輔

ご卒業おめでとうございます。さて、これから社会人あるいは大学院生としてご活動されるみなさんへ贈る言葉について考え、想いをめぐらせました。在学中のみなさんと私とがいっしょに過ごした時間は短いものでしたが、学生時代の出来事は一生記憶に残る印象深いものです。それにふさわしい言葉として、『人間万事塞翁が馬～禍福は予測できない』と題しました。みなさんがこれから社会人として活躍するなかで、多くの節目に遭遇することでしょう。例えば、就職、昇進、結婚、異動、転職などがあげられます。このような場合、第一希望で節目を通過できれば、誰も非常にうれしいものです。反対に、希望が達成されず仕方なく選択する場合は、やはり消沈した気持ちになることでしょう。

人生の節目において、自分の希望がかなえられないことを私も多々経験してきました。しかし、今年度末で定年退職する年齢になって自分の人生を振り返ってみると、仕方なく選択した先で苦労して経験したことがその後の活動にたいへん役立ち、実はとても幸運なチャンスを得ていたことに気付かされたこともあります。反対に、希望がかなえられて当初は喜んでいただけ、それが実は大失敗につながった苦い経験もあります。

人生には多くの出来事がありますが、その禍福はなかなかわからないものですから、日々感謝の気持ちをもって努力を重ねていくことが最良だと思えます。これからのみなさんのご活躍をお祈り申し上げます。

卒業を迎えて

生産・情報システム工学コース
2年 徳永 大輝

7年間という月日が流れ、私たちはこの福島高専を卒業します。この7年間は長いようで、とても短く充実した日々だったと感じています。

振り返れば7年前の3月、忘れもしない東日本大震災に見舞われました。想像を遥かに超える自然災害によって、私たちは多くのかけがえのないものを失い、震災の傷が癒えないまま、不安とともに私たちの高専生活は幕を開けました。しかし、高専に入学したからこそ、学べることも多く、電気工学についての知識はもちろんのこと、災害や原発についての知識も身につけることができました。

また、私にとって高専で一番かけがえのないものは、一緒に苦楽をともにしてきた本科、専攻科の仲間たちです。どんなにレポートが多くても、どんなに試験勉強が辛くても、彼らがいたから、乗り越えることができたと思います。

最後になりますが、7年間で指導して頂いた先生方、家族、友人に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

エネルギー システム 工学コース



飛翔のとき

エネルギーシステム工学コース
コース長 伊藤 淳

専攻科修了おめでとうございます。
本科での5年、専攻科での2年、合わせて7年という長い月日を経て、いよいよ、みなさんは高専から社会に羽ばたこうとしています。

行く手には何が待ち構えているのでしょうか。わくわくする気持ちとちょっとした不安も感じているのではないのでしょうか。いつも順調であればよいのですが、時には大きな困難があるかもしれません。くじけず粘り強く困難に打ち克ってください。その下地はこの7年間で身につけていると思います。

さて、専攻科の生活は、研究や長期インターンシップ、出身学科を越えたプロジェクトへの取り組み、海外留学生との交流などと多くのことを経験し、とても密度の濃い充実した時間を過ごしたものと思います。そして信頼できる多くの仲間ができたものと思います。社会に出ても人とのつながりを大切にしてください。

長い間支援してくださった、保護者の方への感謝を忘れないようにお願いします。健康に留意して、大いに活躍してください。ときには福島高専のことも想いだし、立派に成長した姿を見せに来てくれるとうれしいです。

「第三次成長期」

エネルギーシステム工学コース
2年 野口 孝浩

7年前、高専に入学した当時の私は、“勉強はもうやりたくない少年”でした。卒業後の進路は就職と決めていました。それから7年の時が過ぎ、私は“勉強をもっとしたい青年”になっていました。奇しくも就職したかった自分を忘れ、進学する道を選んでいました。高専で様々なことを学んでいくうちに、このまま終わるのは勿体ないと感じました。勉強することが楽しいと思うようになりました。7年前の自分が聞いたらさぞ驚くことでしょう。勉強の楽しさに気づいたのは5年生の後期だったので、少し気づくのが遅かったと後悔しています。そして、もうやり直しはできないのだと、(割と最近)気づきました。専攻科での2年間はそんな自分を見つめ直す良い時間でした。今は、後悔しないように毎日一生懸命頑張ることが出来ています。7年間の高専生活を通して、私はこんなにもいい子に成長しました。そんなきっかけを与えて下さった福島高専様、先生方に感謝致します。



生きる力としての漢意(からごころ)

化学・バイオ工学コース
コース長 車田 研一

学校へいきはじめ、幼い心にも世の中が秩序だあって認識される前の遠い記憶には、形容しがたい説明のつかなさがあります。ある日くすんだでこぼこの硝子の古窓から陽光が斜めに射しこみ、部屋は煙草でもうもうしていました。一匹の糸のような羽虫が飛んできて座布団の端にとまったと思ったら、見るうちにそれが座布団の角からとびでた黄土色の糸くずへと変わりました。子供心に恐ろしい出来事でしたが、なぜかそれをその場で大人に伝えるのは許されぬと直感し、だれにもいわず四十年以上が過ぎました。そんな^{かたち}貌のない許されぬ^{はなし}断を封印し体よく解説するのが学校の使命で、その意味では学校は漢意^{からごころ}にみちた偏った装置です。辛抱よく七年を共にしてくれた皆さんに深く感謝します。力不十分に悩みながら、それでもどんな漢意のありかたが生きる力の一助となりうるか、そんな自戒的な思念を胸にいだき日々歩むのみです。ともに元気で生きましょう。

私の高専生活

化学・バイオ工学コース
2年 相田 玲奈

福島高専に入学し7年が経ちます。15歳で離れた土地で寮に入り、初めは友人がいなかった私にも、素晴らしい思い出を共にした友人ができました。寮では自立精神や協調性、統率力など多くのことを学びました。同級生、先輩、後輩と寝食を共にし、助け合うことでかけがえのない関係を築きました。テストのときはクラスメイトと学びあいました。本科5年間を同じクラスで過ごした皆は私にとって家族です。専攻科の2年間は、そのほとんどが研究室での思い出で占められます。それまでモチベーションの低かった私が、なにかに熱心に取り組み、やりがいを感じて続けたことは初めてでした。それまで想像すらしなかった学会で六回も発表できました。研究で培った自信はこれからの社会人生活での大きな糧です。このすべては恩師の尾形慎先生と研究室の同胞のおかげです。また、いつも応援してくれる両親に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

社会環境 システム 工学コース



3人で過ごした 学生生活の思い出を大切に

社会環境システム工学コース
コース長 齊藤 充弘

みなさん、専攻科修了おめでとう。よい思い出はたくさんできたでしょうか。

コース在籍3名は、同じ専攻内や先輩、後輩をみても少ない学年となりました。傍からみると、本科在籍時はそれほどお互い親密な関係ではないとみておりましたが、専攻科に進んでからは授業や研究活動で苦労するなかでも協力し合い、それまでの5年間では築くことのできなかった関係が生まれたのではないのでしょうか。それも学生生活の思い出・財産です。

見守るほうとしても、授業ではもちろんのこと、登校時や休憩時間などその他の面でも、例年以上に学生（みなさん）がよくみえた学年であったと思います。「せっかく早く登校したのに、寝ていたり、何もしないでいるのはもったいないな…」、「授業が早く終わったようだけど、寝ていたり、スマホをいじったりしているのはもったいないな…」などなど、授業中なら真っ先に注意することが、みかけるたびに目につき、「いい若者が、もったいないな…」とやきもきしながらみていたことが、私にとってのみなさんとの思い出の一つです。

これからの進路においてはさまざまなことがあると思いますが、専攻科での3人だからこその思い出を経験に変えて、夢にむかって進んでください。

母校への感謝

社会環境システム工学コース
2年 松崎 慎也

卒業が差し迫ってくる中、例年以上に厳しい寒さとともに、この学校に通うのもあと少しなんだと寂しく感じ始めました。それと同時に1日1日を大事に過ごしていきたいという思いも強くなりました。今から7年前、東日本震災があった2011年に福島高専に入学しました。当時、震災の影響で入学が5月にずれ込み、不安を抱えていたことを昨日のことのように思い出します。そのころは1日を長く感じていましたが、思い返すとこの7年は一瞬だった気もします。また、この7年は震災の復興とともにあったと思います。インフラ整備などで復興が進んでいると感じたこともありましたが、風評被害などではまだまだだと感じたこともありました。そんな中、福島高専で学んだことを活かし、社会の一員として地元の復興と今後の発展のお役に立てることができるといことは、不安もありつつ、誇らしいことだと思っています。この7年間、失敗したことや楽しかったこといろいろありましたが、周りのみんなとともに助け合い、成長できたことに感謝です。

最後になりますが、授業や研究でお世話になり、相談に乗ってくださった先生方、ともに学んできた友人、頼りになる後輩、そして、ここまで育てていただき、この学校に通わせてくれた両親に心から感謝しています。福島高専に入学して本当によかったです。これからもこの福島高専で学んだことを誇りに日々を過ごしていきたいと思えます。ありがとうございました。



専攻科の修了によせて

ビジネスコミュニケーション学コース
コース長・専攻長 湯川 崇

専攻科ご修了おめでとうございます。
このたび晴れて修了を迎えたみなさんは、人生で最も成長する時期に高専での7年間を過ごしたことになると思います。みなさんの脳裏には学校生活でのひとつひとつのできごとが懐かしく思い出されているのではないのでしょうか。

福島高専の教員は面倒見がよく、困ったことがあっても親身に相談にのってくれたと思います。みなさんがこれから生活していく社会は、成長を続けてきたこれまでとは違い、先の読めない不安定なものになるかもしれません。辛いことに直面してもまわりに誰も頼る人がいないことがあるかもしれません。どんなときにも高専で身につけた知識や経験を武器に、困難に負けずにそれぞれの持ち味を存分に発揮して乗り越えてもらいたいと願っています。

4月からは社会人としての新しい生活が始まります。卒業後の進路は異なりますが、これからそれぞれの目標に向かって努力を続けて、活躍していくことを期待しています。

「高専で過ごして」

ビジネスコミュニケーション学コース
2年 班目 佳小里

高専に在籍して7年目になりました。同じ環境に7年間身を置くことは、正直良い面も悪い面もあるかと思いますが、私にとっては、落ち着いた環境でやりたいことに専念したり、友人との仲が深められたりと、良いことが多かったと感じています。

7年間のなかで、専攻科で過ごした2年間は特に充実していました。これも、気のあう友人たちと楽しみつつも助け合いながら過ごすことができたおかげだと思います。本科では関わりが少なかった友人もいますが、季節ごとにクリスマスパーティ等をしたり、定期的に食事に行ったりしたことで仲が深まったと思います。学習面では特に特別研究に力を入れ、様々な経験を積むことができました。これも、特別研究の時間が多く設けられている専攻科に進学したからこそ出来たことだと思います。

在学中は多くの先生にお世話になり、様々なことを学びました。これまで高専で得たものを糧に、社会人として頑張っていきたいと思います。

平成29年度 卒業生・修了生の進路状況と キャリア教育支援室の取り組み

男女共同参画・キャリア教育支援室 キャリア教育担当責任者 **松尾 忠利**

平成29年度の本科5年生および専攻科2年生の進路決定状況を下表に示します。例年、本科5年生の進路状況は進学と就職がほぼ半々でしたが、今年度に限ると、就職を希望した学生の割合が10%程度多かったようです。売り手市場の就職戦線を反映するように、就職希望者に対する求人数は25倍でした。加えて、少子化に伴う大学・大学院の学生獲得競争もあって、3月末までには卒業生・修了生のほぼ全員の進路が決定する見込みです。

今年度、キャリア教育支援室として、公務員模擬試験、就職ガイダンス、面接等指導講習会、高専協力会企業との懇談会を開催し、学外での仕事研究セミナーに学生を引率する等の学生への支援を行いました。その度に、自分自身の進路と真摯に向き合う学生の真剣な態度に感銘を受けました。また、キャリア教育担当責任者として多くの企業の方々と面談する機会があり、「興味のある

学生がいる場合は、ぜひ、ご推薦をお願いします。」と言われる度に、社会からの高専生の評価の高さを改めて認識しました。これは、基礎的、専門的な学力が高いことに加えて、何事にも真面目に取り組む素直な性格、協調性やコミュニケーション能力の高さ等、仕事を遂行する上での資質の高さが評価されているのだと思います。一方で、就職活動を行っている学生と、福島高専の学生の採用に積極的な地元企業の間には明確なギャップが感じられることもありました。したがって、今後も地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の活動と連携を取りながら、地元企業の要望にも応えることができたらと思います。

卒業生の活躍によって得られた高い評価に起因する、現在の良好な進路状況に甘んじることなく、来年度もキャリア教育支援室として学生の活動がスムーズに進むように支援を継続します。

本科生の進路 (平成30年3月卒業)

() は女子学生

区 分	機械工学科	電気工学科	物質工学科	建設環境工学科	コミ情学科	計
卒業生数	36(4)	33(2)	37(18)	35(12)	35(28)	176(64)
進学者数	9	16(1)	14(2)	19(5)	13(9)	71(17)
就職者数	27(4)	15(1)	23(16)	14(7)	17(15)	96(43)
そ の 他	0	2	0	2	5(4)	9(4)

専攻科生の進路 (平成30年3月修了)

() は女子学生

区 分	産業技術システム工学専攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
卒業生数	21(2)	4(3)	25(5)
進学者数	6	0	6
就職者数	15(2)	4(3)	19(5)
そ の 他	0	0	0



平成29年度の学生会活動を振り返って

学生会長 機械工学科 4年 小林 由佳

今年度の学生会活動方針は、「学生会活動内容を公開し、学生の意見を取り上げる」というものでした。予算について学生の要望に応えたい、学生会の活動内容をもっと学生に知ってもらいたいという理由からです。

初めての試みである学級委員長との懇談会の意見受付や、磐陽祭で学生会としての催し物、毎年恒例行事となっているクラブ紹介の運営や七夕企画などの活動を通して、学生と多く関わることができた一年だったと感じます。また、夏に行われた東北・全国交流会では他高専との親睦を深め、学生会活動について様々な情報を共有することができました。さらに学生会規約の改正で学生会の役職を増やし、外部との連絡や情報共有をしやすくしたことによって、来年度はより充実した活動ができると思います。

最後になりましたが、一緒に活動し支えてくれた今年度の役員に感謝すると共に、来年度学生会の活躍を期待したいです。

平成30年度学生会執行部役員選挙結果

役職	学年学科	氏名
学生会長	コミュニケーション情報学科3年	福田くるみ
副会長	機械工学科2年	松本安基良
書記	機械工学科2年	阿部慎太郎
会計	ビジネスコミュニケーション学科2年	志賀匠真
会計	機械システム工学科1年	円谷優介
会計監査	ビジネスコミュニケーション学科2年	満山ひかる
会計監査	ビジネスコミュニケーション学科2年	猪狩菜穂子
渉外・広報	電気工学科3年	團野美月
渉外・広報	ビジネスコミュニケーション学科2年	石井花凜
渉外・広報	都市システム工学科1年	土屋 裕
運動部部長	電気工学科3年	小島尚樹
運動部副部長	機械工学科2年	脇田優希
文化部部長	物質工学科3年	門井真理乃
文化部副部長	電気工学科2年	下山田明也乃
研究部部長	機械工学科3年	国井陽気
研究部副部長	物質工学科2年	綾井大樹

全国高専ロボットコンテスト

学生代表 武田 亮完

平成29年12月3日、有明コロシアムにて第30回の全国高専ロボコンが開催されました。今回は「本陣」と呼ばれるX字の形のオブジェクトに取り付けられた10個の風船と、2台のロボットに取り付けられた5個の風船を割りあう直接対戦形式の競技です。

本校のAチームが制作したロボット「カエルの為に腕は鳴る」が東北大会で技術賞を頂き全国大会に出場しました。そして、一回戦で中国地区の優勝校である呉高専と対戦しました。操縦者の腕の動きにシンクロして腕が動くロボット、手裏剣を発射し遠距離攻撃するロボットの組み合わせで戦い、8対10という結果で惜敗しましたが、福島高専のロボットの強さ、アイデア、技術力を示すことができました。

このように全国大会に出場できましたことは、ご支援、応援して下さった教職員、ロボコンの活動に理解を示して下さった父兄の皆さま、興味を持って下さった地域の皆様のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。



全国高専プログラミングコンテスト

プログラミングコンテスト指導教員 小泉 康一

平成29年10月8日（日）、9日（月）の両日、山口県周南市文化会館にて第28回全国高専プログラミングコンテストが開催されました。本校は電気工学科4年小助川克也、3年加藤大貴、佐藤健喬のチームで競技部門のパズルゲーム対抗戦に出場しました。一枚の木板が様々な形に切り取られ、30個程度の細かい部品にされているものを元の板に戻します。前回大会も同じような内容の競技でしたが、本年度はすべての部品を戻さないといけません。できるだけ速く元の板に復元できたチームが勝利となります。前回と異なり、部品の情報がヒントとして与えられていましたが、ヒントを利用しない方が高得点になるため、各チームはどこまで利用するのかを選択して競い合うゲームになりました。本校は一回戦を勝ち抜いたものの、準決勝ではヒント情報を使い過ぎたせいか成績を伸ばすことができず敗退という結果でした。応援して下さった皆様には御礼を申し上げます。



全国高専デザインコンペティション参加報告

デザインコンペティション指導教員 齊藤 充弘・加村 晃良

平成29年12月2日（土）～3日（日）の2日間、岐阜市において第14回全国高等専門学校デザインコンペティションが開催されました。今年の構造デザイン部門は、「デザインが天下を制する」をテーマに、約60kgfの荷重に耐える銅製の橋を製作するものでした。本校からは2チームが出場し、うち1チームが過去最高となる第3位（日本建設業連合会会長賞）という素晴らしい成績を収めました。橋の性能と設計コンセプトに関するプレゼンテーションで採点されましたが、共に高い評価を頂いたことから、今後の活躍がますます期待されます。

空間デザイン部門では「物語（ナラティブ）を内在する空間」というテーマについて、建設環境工学科の5年生5名が共同で、「近世城下町が現代のまちに生きる～平が天下を制する～」という地元いわき・平を題材とした作品を考案・製作して応募しましたが、残念ながら予選を通過することができませんでした。



全国高専英語プレゼンテーションコンテスト

英語プレゼンテーションコンテスト指導教員 加藤 明子・石原 万里

2018年1月27日から28日にかけて、東京代々木オリンピックセンターにて、第11回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストが行われました。本校からは、ビジネスコミュニケーション情報学科2年生、藤田来夏（ふじたらな）さんが、“Children of the World”というタイトルのスピーチでシングル部門に出場しました。藤田さんは、2017年10月21日、仙台高専名取キャンパスで行われた東北大会を2位で通過し、全国大会の出場権を獲得しました。今大会から、シングル部門もスピーチではなく一人でのプレゼンテーションというTEDトーク形式に変更されました。藤田さんは、1月初頭からプレゼンテーション資料作成と練習に毎日取り組みました。大会当日は、世界の子供たちの貧困問題について、問題提起をするプレゼンテーションを披露して聴衆にメッセージを伝えました。結果、日本国際連合協会会長賞を獲得しました。



体育部

◎平成29年度福島県高等学校新人体育大会 県大会

■陸上競技 (男子)

400m H	佐藤 優斗(1C)	第5位
		(東北大会出場)
走幅跳	末永 淳(2M)	第6位
三段跳	末永 淳(2M)	第2位
		(東北大会出場)

■陸上競技 (女子)

走幅跳	畠山 茉紘(1B)	第8位
棒高跳	熊本 咲英(1B)	第5位

■バレーボール (男子)

2 回戦敗退

■ソフトテニス (男子)

団体戦 1 回戦敗退

個人戦 大榎 旺杜(2C) 1 回戦敗退
新妻 佳祐(2E)

■ソフトテニス (女子)

団体戦 3 回戦敗退

個人戦 大和田夏美(1T) 猪狩 澄玲(1T) ベスト16
千葉 彩華(1T) 山野辺愛佳(1B) 1 回戦敗退

■テニス (男子)

団体戦 3 回戦敗退

シングルス 猪狩 伸斗(2K) 2 回戦敗退

■テニス (女子)

小野樹りあ(2C) 1 回戦敗退

■卓球 (男子)

団体戦 ベスト 8

ダブルス 赤津 陽斗(1E) 2 回戦敗退

田子 千晃(1C) ベスト32

シングルス 赤津 陽斗(1E) ベスト32

田子 千晃(1C)

■卓球 (女子)

ダブルス 鈴木 茉林(2B) 2 回戦敗退

吉田 菜摘(1B) ベスト32

シングルス 鈴木 茉林(2B)

■水泳競技 (男子)

50m自由形 鈴木 拓将(1M) 予選敗退

大和田直希(2E) 予選敗退

太田 俊平(2C) 予選敗退

100m自由形 鈴木 拓将(1M) 予選敗退

矢吹 将也(1C) 予選敗退

大和田直希(2E) 予選敗退

200m自由形 三本松武琉(1E) 予選敗退

矢吹 将也(1C) 予選敗退

土屋 裕(1T) 予選敗退

100m背泳ぎ 箭内 武敏(2M) 予選敗退

矢澤 啓佑(2K) 予選敗退

200m背泳ぎ 箭内 武敏(2M) 予選敗退

矢澤 啓佑(2K) 予選敗退

100m平泳ぎ 齊藤 竜也(1T) 予選敗退

脇田 優希(2M) 予選敗退

太田 俊平(2C) 予選敗退

200m平泳ぎ 脇田 優希(2M) 第6位

青木 亨論(2C) 予選敗退

400mリレー (脇田, 大和田, 太田, 矢澤) 予選敗退

400mメドレーリレー (矢澤, 脇田, 大和田, 太田) 決勝進出失格

■水泳競技 (女子)

50m自由形 柳内 紅葉(2B) 予選敗退

100m自由形 河治 早紀(2B) 予選敗退

柳内 紅葉(2B) 予選敗退

200m自由形 河治 早紀(2B) 予選敗退

100m平泳ぎ 猪俣 里奈(1T) 予選敗退

200m平泳ぎ 猪俣 里奈(1T) 予選敗退

■弓道 (男子)

個人戦 新妻 広康(2E) 予選敗退

■弓道 (女子)

個人戦 福地 啓大(2K) 予選敗退
佐川あきら(2K) 準決勝進出
佐川菜々香(2B) 準決勝進出
山本 彩乃(2B) 予選敗退

■空手道 (男子)

男子個人形 石井 啄翔(1C) 1 回戦敗退
男子個人組手 石井 啄翔(1C) 1 回戦敗退

■剣道 (男子)

団体戦 1 回戦敗退

■剣道 (女子)

団体戦 1 回戦敗退

■バドミントン (男子)

団体戦 1 回戦敗退

シングルス 薄葉 健大(1M) 1 回戦敗退

■バドミントン (女子)

団体戦 2 回戦敗退

ダブルス 赤塚 優花(1B) 3 回戦敗退

根本 真央(1C) 3 回戦敗退

川音みのり(2B) 2 回戦敗退

草野 優夏(1B) 2 回戦敗退

根本 真央(1C) 3 回戦敗退

赤塚 優花(1B) 2 回戦敗退

川音みのり(2B) 1 回戦敗退

草野 優夏(1B) 1 回戦敗退

◎平成29年度第2回 J A ふくしま未来カップ卓球大会

女子シングルス 岡部あゆみ(3I) 優勝

高橋 百花(4I) 第3位

女子ダブルス 高橋 百花(4I) 優勝

岡部あゆみ(3I)

◎平成29年度東京卓球選手権大会福島県予選会

男子シングルス 谷本 純一(3E) 1 回戦敗退

山本 崇史(3K) 予選リーグ敗退

小野 智生(3K) 予選リーグ敗退

大沼 翼(2M) 予選リーグ敗退

赤津 陽斗(1E) 予選リーグ敗退

田子 千晃(1C) 予選リーグ敗退

桑机 友翔(1T) 予選リーグ敗退

男子ダブルス 谷本 純一(3E) 予選リーグ敗退

赤津 陽斗(1E) ベスト 8

山本 崇史(3K) 2 回戦敗退

田子 千晃(1C) 2 回戦敗退

小野 智生(3K) 1 回戦敗退

大沼 翼(2M) ベスト 8

女子シングルス 高橋 百花(4I) ベスト 8

岡部あゆみ(3I) 予選リーグ敗退

鈴木 梨恵(3K) 予選リーグ敗退

鈴木 茉林(2B) 予選リーグ敗退

女子ダブルス 高橋 百花(4I) ベスト 8

岡部あゆみ(3I) 2 回戦敗退

鈴木 梨恵(3K)

鈴木 茉林(2B)

◎第37回福島県高等学校選抜剣道優勝大会

男子団体 1 回戦敗退

◎第54回東北地区高等専門学校体育大会ラグビー競技

1 回戦敗退

◎第22回東北高等学校新人陸上競技選手権大会

400m H 佐藤 優斗(1C) 予選敗退

三段跳 末永 淳(2M) 第5位

◎第72回国民体育大会

少年女子共通(高校生) 上垓千華子(3I) 第7位入賞

◎第6回福島空港公園秋季選抜ジュニアシングルステニス大会

男子シングルス 猪狩 伸斗(2K) 予選3・4位通過

トーナメント1回戦敗退

◎第44回福島県ダブルステニス選手権大会 (ジュニアの部)

男子ダブルス 蓬田 世羅(2K) 2 回戦敗退

他校生徒

- 〃 高橋 知輝(1T) 2 回戦敗退
 石田 壮太(1C)
 〃 根本 拓武(2K) 1 回戦敗退
 蛭田 容基(2C)
 ◎第37回福島県春季選抜ジュニアシングルトニス選手権大会
 男子シングルス 蓬田 世羅(2K) 1 回戦敗退
- ◎第15回福島県高等学校秋季ソフトテニス大会
 女子団体戦 予選リーグ敗退

- ◎第47回福島県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会
 女子ダブルス 大和田夏美(1T) ベスト16
 山野辺愛佳(1B)
 ◎第6回秋季東北地区高専硬式野球交流戦
 八戸 1-9 福島高専
 秋田 9-7 福島高専
 鶴岡 7-9 福島高専 第3位

文化 部

■写真部

- コンテスト
- ◎第36回福島県高等学校総合文化祭写真展
 「7年越しの想おもい咲く」 石井 楓生(3E) 最優秀賞
 「満ち溢れる若き力」 山野邊裕樹(1C) 最優秀賞
 (2018年第42回全国高等学校総合文化祭推薦作品)
- ◎平成29年度いわき地区高等学校写真連盟写真展
 「勝負の一瞬」 山野邊裕樹(1C) 特選
 「未知へのステップ」 石井 楓生(3E) 準特選
 「満ち溢れる若き力」 山野邊裕樹(1C) 入選
 「舞蝶」 小林 美樹(1C) 入選
 「熱血！ロボ男子」 石井 楓生(3E) 佳作
- ◎第24回東北地区高等専門学校文化部発表会
 写真部門
 「笑顔咲く」 石井 楓生(3E) 入選
- ◎海まち・とよまフォトコンテスト
 「友の誓い」 石井 楓生(3E) 優秀賞
 写真展
 福島高専・いわき総合高校合同写真展(3月) 開催予定
 写真集
 ・福島高専写真部写真集2017 発行
 ・第7回フラガールズ甲子園フォトブック 発行
 ・街コン写真展2017 in Aliosフォトブック 発行
 福島高専・いわき総合高校合同写真展写真集 発行

撮影会

- ・古殿流鏑馬撮影会(10月) 実施
 ・裏磐梯紅葉撮影会(10月) 実施
 ・冬の会津・裏磐梯撮影会(3月予定)
 H29年いわき地区高等学校写真連盟写真技術講習会(12月) 主催

地域活動

- ・いわき街なかコンサート撮影(10月) 実施
 ・タウンマガジンいわき撮影協力
 2月号(成人式撮影) 実施
 3月号(サンシャインマラソン撮影) 実施
 ・フリーペーパー高校生通信Vol.12-20「Gallery」連載

■その他

- ◎全国高等専門学校デザインコンペティション2017in Gifu
 【構造デザイン部門】
 ・チームA 第47位
 ・チームB 優秀賞
 日本建設業連合会会長賞
- 【空間デザイン部門】
 ・佐藤優輝 木田亜梨沙 木田隆雅 予選敗退
 緑川太智 森本元太郎(以上、5K)

■美術部

- ◎第24回東北地区高等専門学校文化部発表会
 絵画部門
 「色彩構成」 坂口理生奈(5I) 入選
 「石膏デッサン」 下山明也乃(2E) 入選

■将棋部

- ◎全国高等学校文化連盟将棋新人大会福島県大会
 男子個人戦 秋山 祐輝(1M) 2 回戦敗退
 〃 遠藤 雅明(1C) 2 回戦敗退
 〃 今野竜之介(1M) 2 回戦敗退
 〃 鈴木 練(1M) 2 回戦敗退
 〃 水野 典治(1T) 1 回戦敗退
 男女同一戦 小澤 梨奈(2BC) 1 回戦敗退
- ◎第18回東北地区高等専門学校将棋新人大会
 女子個人戦 小澤 梨奈(2BC) 1勝4敗

■茶華道部

- いわき学校茶道連盟 第43回合同発表会 参加

■吹奏楽部

- ・第39回定期演奏会 実施
 ◎第45回福島県アンサンブルコンテストいわき支部大会
 打楽器三重奏 金賞

■ロボット技術研究会

- アイデア対決・全国高等専門学校
 ロボットコンテスト2017東北地区大会
 ・Aチーム「カエルの為に腕は鳴る」
 武田亮完・埜 哲平・草野清重 1 回戦敗退
 アイデア賞
 特別賞
 (ローム株式会社)
 (全国大会出場)
- ・Bチーム「甲虫忍法帖」
 国井陽気・相原空歩・上野台祐太 1 回戦敗退
 特別賞(マブチモーター株式会社)
 アイデア対決・全国高等専門学校
 ロボットコンテスト2017全国大会
 ・Aチーム「カエルの為に腕は鳴る」
 武田亮完・埜 哲平・草野清重 1 回戦敗退
 特別賞(ローム株式会社)

■ソフトウェア研究会

- ◎全国高等専門学校第28回プログラミングコンテスト
 【競技部門】
 チーム名「ソフ研」
 加藤 大貴(3E)・佐藤 健喬(3E)・小助川克也(4E)
 1 回戦第6位 準決勝進出
 準決勝第11位

■ストリートダンスサークル

- DANCE ALIVE HERO'S 2018 RIZE TOHOKU vol.2 ベスト8
 第10回日本高校ダンス部選手権 冬の公式大会 ベスト16

■英語サークル

- 第11回東北地区高等専門学校英語スピーチコンテスト
 藤田 来夏(2I) 第2位
 (全国大会出場)
- 第11回全国高等専門学校英語スピーチコンテスト
 藤田 来夏(2I)
 日本国際連合協会会長賞



磐陽祭

平成29年度磐陽祭開催報告

学生主事補 尾形 慎

今年度の福島工業高等専門学校高専祭『磐陽祭』は、11月3日（金）に前夜祭が、4日（土）に一般公開の本祭が行われました。本年度の磐陽祭は、テーマを「まなべ！あそべ！わらえ！Fukushima Kosen Land」と定め、本校の学生と近隣市民の皆様との交流を通じて福島高専の学びの奥深さや楽しさを知ってもらえるような高専祭を目指し取り組んできました。学びの面では、オープンキャンパスとして各学科、専攻科およびセンターなどを公開し、福島県浜通り地区にある数少ない高等教育機関としての本校の活動を広く知って頂く機会となりました。また、学生自身が案を出し合って企画したビンゴ大会やのど自慢大会、スタンプラリー、お化け屋敷などを通じて、自由でのびのびとした本校の校風が一般来場者の皆様にも伝わったのではないかと思います。

天候に恵まれたこともあり、多くの来場者にお越し頂き無事に磐陽祭を開催できましたのは、保護者の皆様、近隣地域の方々、関係機関の皆様のご理解、ご協力によるものだと思っております。本文にてお礼申し上げます。

磐陽祭を終えて

磐陽祭実行委員長 機械工学科4年 佐藤 銀河

今年度の磐陽祭は、記念すべき55回目の開催となりました。特別な磐陽祭にしたいという思いがあり、実行委員会全体で新しいことに挑戦しました。

前夜祭では、福島高専初の試みとして、パフォーマンスによりミス高専を決める「ミスコン」を企画しました。本祭では、「呪われた廃校」と名付けたお化け屋敷企画を数年ぶりに復活させることができました。当日は長蛇の列ができるほどの人気で、来場した皆様にも楽しんで頂けたことと思います。

その一方で、昨年度取り組んだ「地球環境に配慮したごみの分別企画」などは、良き伝統としてきちんと受け継ぐこともできました。

今年度、磐陽祭実行委員長として磐陽祭を運営する中で、いくつかの課題も見られましたが、来場者数が昨年度より増えたということで嬉しい限りです。最後に、本磐陽祭は様々な方のご協力により開催できたものです。実行委員会一同、心より御礼申し上げます。

TOPICS

浜田昌良復興副大臣が福島高専を視察

浜田復興副大臣が1月9日、本校を視察されました。今回の視察は、福島県内の復興状況視察の一環として、福島浜通り地域の産業創出を目指す福島イノベーション・コースト構想を推進するうえで、地元の高等教育機関が、どのような人材育成の取組を行っているかを確認するとともに、関係者との意見交換を主な目的として行われました。

最初に、中村福島高専校長から、本校の概要、福島イノベーション・コースト構想への対応及び廃炉人材育成等の各種事業の説明があった後、意見交換が行われ、同副大臣からは、「福島イノベーション・コースト構想を推進していく上で、中長期的な人材育成は重要であり、必要な支援をしていく。」との話がありました。意見交換終了後は、スマートグリッド実規模実験装置を視察し、担当者からの説明に熱心に耳を傾けていました。



ポルトガル ポルト工科ポリテクニク (ISEP) と学術交流協定を締結しました



本校は、11月23日、ポルトガルのポルトにあるポルト工科ポリテクニク (ISEP) との学術交流協定を締結しました。

同校は、本校同様、機械工学、電気工学、化学工学、土木工学の工学系学科を設置しているほか、文系の経営学科も設置しており、理論と実践を重視した高専の人材育成の考え方と同じ教育方針を掲げています。また、本校が加盟を検討している、世界的な実務指向の工学教育改革であるCD10イニシアチブ加盟校のうちの1校でもあります。更に、サステナブル、ロボティクスの研究が盛んなことから、

サステナブル事業への協働、高専ロボコン・廃炉ロボコンへの出場・協働が期待されます。全学科を通じての交流事業として、企業インターンシップの実施、教員招聘プログラムの実施、平成30年度JASSO奨学金協定派遣・受入申請および翌年度からの事業実施など、多様な側面から積極的にアプローチすることにより、今後、両校の教育活動の更なる進展を図っていきます。

東日本国際大学・いわき短期大学と連携協定を締結



本校では、1月11日、学校法人昌平齋 東日本国際大学・いわき短期大学と連携に関する協定を締結しました。協定の内容は、福島県とその周辺地域の復興支援及び福島浜通り地域の産業創出を目指す福島イノベーション・コースト構想の推進に寄与することを目的に、相互の研究施設、研究成果等を連携活用し、人材育成及び研究等の充実を図るというものです。東日本国際大学で執り行われた締結式では、学校法人昌平齋緑川理事長が「地元への復興に貢献できるグローバルな人材を共同で育成していきたい」、福島高専中村校長が「双方の持つ文系と工学系の要素のシナジー効果によって、今後の福島浜通りの復興を教育研究や人材育成といった観点から支えていく」とあいさつしました。今後は、本校が進める環境をテーマとする国際的なPBL (project based learning) 研修「グリーンプログラム」や東日本国際大学が取り組む「心のレジリエンスプログラム」などでの協力、隣接する両校の広野オフィスを活用した共同事業などが予定されています。

第2回廃炉創造ロボコン開催

文部科学省及び廃止措置人材育成高専等連携協議会（会長：福島高専校長）が主催する「第2回廃炉創造ロボコン」が12月15日（金）～16日（土）、日本原子力研究開発機構櫛葉遠隔技術開発センターを会場に開催され、全国の国公立高専から15校16チームが参加しました。第1回大会では課題を達成するチームがありませんでしたが、今回は4チームが課題を達成し、観覧者から大きな歓声と拍手が送られていました。

福島高専チームのロボット「Hairon（ハイロン）」は、5kgの荷物を載せて階段を上る課題に挑みました。テストランでは階段を上る姿を披露しましたが、本番では思うように上れず無念のタイムアップとなりました。

廃炉創造ロボコンは課題を一新し、来年度も12月に開催を予定しています。



平成29年度（第6期生）福島浜通りグローバル人材育成事業・事後報告会を開催

平成29年度前期（第6期）～トピタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～「地域人材コース」に採択された「トピタテ！福島浜通り再生ストーリーの主役たち」の留学生8名（獨協大学1名・慶應義塾大学1名・いわき明星大学1名・福島高専5名）のうち、11月までに留学を終えた6名が帰国し、11月12日（日）産業創造館ラトプで事後報告会を開催いたしました。

参加者は福島浜通りグローバル人材育成事業推進協議会員及び同運営委員・留学生のインターンシップにご協力いただいた企業関係者・ご寄附をいただいた企業の皆様・日本学生支援機構トピタテ！留学JAPAN担当者の計40名ほどの参加がありました。

初めに、協議会長の中村福島高専校長から挨拶があり、次に留学生から報告を行いました。各々の留学生からは、留学して楽しかったこと、つらかったことなどを織り交ぜながら留学の概要や成果、将来の展望等について発表があり、その後参加者から質問をいただきました。

最後に日本学生支援機構・トピタテ！留学JAPAN グローバル人材育成企画課長斎藤様及びいわき商工会議所副会長頭正木様から講評をいただき和やかなうちに終了しました。



原子力規制人材育成事業・教育研究フォーラムを開催

事業代表者 副校長（専攻科・評価・広報担当） 原田 正光



昨年度採択された「原子力規制庁・原子力規制人材育成事業『地域の環境回復と環境安全に貢献できる原子力規制人材の育成』」のこれまでの成果を発表する教育研究フォーラムを1月11日（木）、本校において開催しました。

フォーラムでは、中村校長から主催者挨拶、IAEA等の委員を長く務め、水圏環境汚染評価とリスクアセスメントの米国のリーダーである、東日本国際大学客員

教授・同大学福島復興創世研究所長の大西康夫先生による「福島復興に有効な知識と経験～米国ハンフォードの環境・経済復興と放射性廃棄物処理・処分～」と題した基調講演を行い、実施責任者の原田副校長からこれまでの事業実施報告があった後、学生による事例発表が行われました。

今後、数十年以上かかるといわれている地域の環境回復に向け、同事業の成果が期待されます。

前校長 中村 隆行



平成三十年三月をもって、退任することとなりました。

四年の任期でしたが、色々とお世話になりました。福島高専の校長に就任して以来「いわきから世界に活躍するイノベーション人材を育てる」を、スローガンに掲げ、教職員及び学生諸君と、様々な活動に取り組んできました。このスローガンには、三つの観点があります。

第一点目は、「世界に活躍する」というグローバル化対応の観点です。福島高専が、関東圏の高専で構成される「第二ブロック」のグローバル化の拠点校になったこと、文部科学省の「トビタテ留学 JAPAN日本代表プログラム」の地域人材コースに採択されたこと、数多くの福島高専生を海外留学に派遣出来たことなどがあります。

第二点目は、「イノベーション人材を育てる」という観点です。福島・国際研究産業都市構想、いわゆるイノベーション・コースト構想に対応することを趣旨として、工学系四学科を改組したこと、その前の年には、「コミュニケーション情報学科」を「ビジネスコミュニケーション学科」に改組したことなどがあります。

第三点目は、「いわきから」という観点です。これは、「福島から」と言い換えることもできると思います。福島浜通りの復興に貢献できる人材を養成するという観点から、原子力安全分野の人材を育成することを目的とし、文部科学省の「廃止措置等基盤研究・人材育成プログラム」に、高専では唯一採択され、「廃炉創造ロボコン」を、日本原子力研究開発機構の檜葉遠隔技術開発センターをお借りして、福島高専が主体となり実施したことなどがあります。

福島高専のこれからの発展は、地域の発展と密接に関係していると思っています。東日本大震災から、七年が経過した中で、福島浜通りの活性化のために、福島高専は、今後とも大いに貢献すべきと私は考えています。

皆さんの、今後のご健闘をお祈りしています。また、四年間どうもありがとうございました。



人間の進化を切に感じて…

機械システム工学科 寺田 耕輔

人間の始まりは諸説あるが、直立2本足で歩行し始めた時期とし、アフリカ大陸東部大地溝帯で発掘された人骨から約700万年前ごろとされている。約1万年前から農耕を始め定住生活をしはじめ、文明が誕生したとされている。油田を掘削し動力として石油を使う機械文明は、150年くらいしか経過していないし、コンピューターを多くの人が日常的に使うようになったのは最近のことである。

私も定年退職する年齢となり、自分が生まれた63年前の社会と現在社会とを比較すると雲泥のちがいに驚愕し、近い将来、人間に本格的な進化が起きるのではないかと予期しています。このような時代を皆さまとご一緒に活動できてたいへん幸いに思います。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

退職者ご挨拶



ビジネスコミュニケーション学科 西口 美津子

男女雇用均等法の施行される前の民間企業にソフトウェア開発の設計者として就職して以来、あっという間の41年間でした。最初の企業では「事業所初の女性企画職」にして頂いたものの退職、外資系企業や独立行政法人と友人の言う「蟹の横ばい人生」を続けてきました。戦前の良妻賢母教育を受けた母の影響と、戦後のS. ポーヴォワールの「人は女に生まれない女になるのだ」というフェミニズムへの憧憬との間で、中途半端な職業人生だったと言えなくもありません。とはいえ、高専で多くの若者に囲まれながら人生初の定年を迎えられたことは幸せなことかと思えます。かつて、今の私と同年代の恩師の口癖だった「人間は一生勉強、いつでも始まり」を胸に今後も新たなことに挑戦できたらと考えております。



都市システム工学科 林 久資

3月31日をもって都市システム工学科を退職することになりました。たった6年間の高専教員生活でしたが、授業・卒業研究・部活動・寮などのすべてで学生に恵まれ、楽しく仕事を進めることができました。着任以来何らかの関わりがあったすべての学生に御礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

4月からは、いわきから1000km以上離れた山口県宇部市にある山口大学工学部に務めることになりました。遠くなってしまいますが、大学編入や就職で近くに住むことになったときや、学会発表などで私の顔を見かけましたら是非声をかけてください。いつかまたみなさんとお会いできる事を楽しみにしています。



電気電子システム工学科 若松 孝

茨城高専からの派遣2年間でしたが、私の出身地にある高専で教壇に立てて充実した教員生活を送れました。お世話になりました。

高専生からよく耳にする言葉があります。それは「とりあえず、〇〇」。まずは「とりあえず」やってみるといふ、高専生のチャレンジ精神の表れです。あまり考えずに行動するため、大抵上手くは行きません。「失敗」です。しかし、「失敗」の経験を通してこそ、初めて学ぶことができます。若いときに小さな失敗を多く体験し、次によく考えた上で行動することが大切です。「失敗をしない人は、成功もしない」と言います。皆さん、「とりあえず」目の前のことから始めてください。隣の高専から皆さんの活躍を願っております。



福島高専で約7年間お世話になりました。

特命准教授 徐 艶濱

震災後、復興人材育成ため、再生可能エネルギー分野での特別教員として採用されました。新しい職場で新しい仕事なので、赴任したときワクワクして不安な気持ちがありましたが、先生の皆様に温かく支えていただき、充実した毎日を送ってまいりました。福島高専では素晴らしい先生がいて、優秀な学生も多くて、とても貴重な体験をたくさんさせていただきました。高専卒の主人もいて、新入生の姪っ子、甥っ子もいて、本当に高専と縁があるなぁと思います。まだ高専で働くことができるように頑張ります。今まで本当にありがとうございました。

転 出

氏 名	新 任 地
化学・バイオ工学科 助教 山内 紀子	茨城大学工学部へ
総務課 総務課長 山本 直之	茨城高専（学生課長へ 4月1日付）

高等学校等就学支援金

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。国立高等専門学校（第1学年～第3学年）も就学支援金制度の対象となっており、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されますが、平成26年4月の入学者からは所得制限を設けた新制度が実施されております。

支給期間は原則として通算36月となっております。また、保護者の所得に応じて一定額が加算される加算支給制度もあります。

なお、就学支援金は市町村民税所得割額を基準に支給されるため、保護者等の失職、倒産等家計急変したときにすぐ反映されない場合があります。その場合、就学支援金制度とは別に、「家計急変支援金制度」の対象となる場合がありますので、詳しくは学生課学生支援係にお問い合わせ下さい。

※平成30年7月以降の就学支援金の支給等に係る審査からは学年を問わず「都道府県民税所得割の額と市町村民税所得割の額とを合算した額」に判定基準が変更される予定です。詳細については、後日、あらためてお知らせ致します。

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請（前期の授業料の免除申請の際に併せて、後期の申請も可能です。）に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は免除選考基準により、家計・学力・人物について学生委員会で審議します。経済的理由による授業料免除の対象となるのは、4年生・5年生・専攻科生となります。

3年生以下につきましては、左記の高等学校等就学支援金制度が適用されるため、経済的理由による授業料免除の対象とはなりません。

（ただし、授業料の各期の納付期限前6月以内の学資負担者死亡等、特別な事情が発生した場合は、例外的に授業料免除の対象となることがあります。）

経済的理由による授業料免除の申請時期は、前期分は3月下旬、後期分は9月中旬となっておりますが、事前の説明会で免除申請用紙を配付し、併せて申込み締切り日についてお知らせします。なお、説明会の日程については、掲示・放送および学級担任・専攻科コース長からお知らせします。

奨学制度・授業料免除制度・高等学校等就学支援金についてのお問い合わせは
学生課学生支援係まで TEL 0246-46-0736

平成30年度 行事予定(前期)

4月

- 3日(火) 入学式(本科・専攻科・編入学生)
新入寮生歓迎夕食会
- 4日(水) 始業式
新入生オリエンテーション
交通安全教室(1年)
- 5日(木) 前期授業開始
特研オリエンテーション(専1)
- 6日(金) 工学実験ガイダンス(専1)
- 11日(水) 全校・校外清掃日
- 18日(水) 基礎学力標準試験(化学)
(工学系4学科の3年生対象)
- 19日(木) 定期健康診断(臨時休講)
- 27日(金) 開校記念日
- 28日(土) 公開授業

5月

- 2日(水) 学生総会
春季校内体育大会
- 7日(月)～11日(金)
専攻科推薦入試願書受付
- 9日(水) 後援会総会・学級懇談会・寮生保護者
個別面談会
- 19日(土) 専攻科推薦入試
- 22日(火)～24日(木)
前期中間試験
- 29日(火)～30日(水)
前期中間試験

6月

- 11日(月)～15日(金)
専攻科学力入試願書受付
- 13日(水) 学級委員長との懇談会(仮)
- 23日(土) 専攻科学力入試
- 29日(金)～7月1日(日)
東北地区高専体育大会

7月

- 18日(水) インターンシップ事前指導会(4年)
- 27日(金)～8月2日(木)
前期末試験

8月

- 1日(水)～3日(金)
編入学願書受付
- 2日(木) 集会、教室整備
- 3日(金) 補講日、体験入学準備日
- 3日(金)～9月18日(火)
夏季休業
- 4日(土)～5日(日)
体験入学
- 10日(金) 閉寮
- 11日(土)～16日(木)
学校閉鎖
- 20日(月) 開寮

9月

- 4日(火) 編入学試験
- 27日(木) 集会、寮防災訓練、専攻科集会
- 28日(金) 秋季校内体育大会

編集後記

学校だより104号に原稿を寄せてくださった多くの皆様に感謝いたします。本報が発行になる時期には桜も咲き新任者や新入生を迎えていることと思います。本校を後にされる多くの皆様も新しい環境の中でスタートされていることでしょうか。このような新旧入れ替わりの時期の編集作業には寂しさや慌ただしさを感じますが、近づいてくる新しいものへの期待も混じります。平成も総括の30年度がスタートします。